

（1）学習の状況と課題

- 1年 課題に意欲的に取り組もうとする生徒が多く、発問に対して積極的に挙手・発言しようとする生徒が多い。その一方で、まだ四則計算や文字の扱いが苦手な生徒もいることに加え、本年度4月に実施された区学力定着度調査の結果、区の平均正答率とほぼ同じことを意識しながら少人数指導による一人一人に応じたきめ細かい指導を意識して行っている。
- 2年 授業に真面目に取り組む、挙手・発言も積極的な生徒が多い。1年次の文京区学力定着度調査では区の平均正答率を5.7ポイント下回っていたことを意識して、机間指導を細かく行うなどして基礎・基本の定着を図っている。
- 3年 授業に真面目に取り組む、向上心が高い生徒が多い。知識・理解や技能の定着は図れているが、見方や考え方の力が問われる問題が苦手な生徒がいるため、机間指導などで細やかに声をかける。補充のプリントを作成するなど意欲を保ち、反復練習ができるよう指導を工夫していく。

（2）指導改善の観点（課題解決のための具体的な授業改善策）

1年 2年 3年

- ①東京方式習熟度別指導のよさを生かし、指導方法や教材の工夫に努め、特別支援教育担当指導員を活用し連携を深め、より個に応じたきめ細かな指導を充実させて、学力向上を図る。
- ②基礎的・基本的な学習内容の定着と、関心・意欲・態度の高まる授業展開への工夫を充実させるため、学習内容の活用方法の習得に重点を置く。
- ③演習プリントを使って計算などを反復学習することで数学的な技能を高めていく。

（3）指導方法改善のポイントと方策

1年 2年 3年

- ①「数学への関心・意欲・態度」を育てる指導
- 毎時間の目標を明確にし、“やればできる”ということが実感できるように、わかりやすい説明を心掛ける。
 - 教材を工夫し、様々な場面で数学を活用しようとする態度、主体的に学習する態度を育てる。
- ②「数学的な見方や考え方」を育てる指導
- 1つの解法にこだわらず、様々な解法の手立てを考えさせる指導を行う。
 - 言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて考えたり、説明したり、表現したりする授業を行う。
 - 多様な考え方のできる課題の設定などを工夫した授業を行う。
- ③「数学的な技能」を育てる指導
- 定期的な小テストの実施や演習の時間を多く設定し、反復学習をすることで基礎・基本の定着を図る。
- ④「数量や図形などについての知識・理解」を育てる指導
- 授業の初めの前回までの確認や、小テストや定期考査、授業の様子から理解状況を把握し、指導する。